

---

第2回 日野町議会定例会会議録 (第4日)

令和2年3月17日 (火曜日)

---

議事日程

令和2年3月17日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番6 2番 梅林 敏彦 議員

通告順番7 3番 山形 克彦 議員

---

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番6 2番 梅林 敏彦 議員

通告順番7 3番 山形 克彦 議員

---

出席議員 (10名)

1番 中山 法 貴

2番 梅 林 敏 彦

3番 山 形 克 彦

4番 金 川 守 仁

5番 松 尾 信 孝

6番 中 原 信 男

7番 安 達 幸 博

8番 佐々木 求

9番 竹 永 明 文

10番 小 谷 博 徳

---

欠席議員 (なし)

---

欠 員 (なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 池 田 俊 弘 書記 ————— 三 好 達 也

---

### 説明のため出席した者の職氏名

町長	—————	埴田 淳一	副町長	—————	音田 守
教育長	—————	生田 進	総務課長	—————	渡部 裕之
住民課長兼会計管理者	——	矢田貝 慎一	企画政策課長	—————	荒木 憲男
健康福祉課長	—————	伊田 喜浩	産業振興課長	—————	角井 学
建設水道課長	—————	飛田 朋伸	教育課長	—————	砂流 誠吾
危機管理監	—————	天野 智			

### 午前10時00分開議

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和2年第2回日野町議会定例会4日目を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

### 日程第1 一般質問

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、2名の議員の一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

最初に、2番、梅林敏彦議員の一般質問を許します。

2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） おはようございます。一般質問2日目最初の質問に立ちます。本日は、私の質問は1つ、新規就農者をいかにして……。

○議長（小谷 博徳君） 梅林敏彦議員、マイク立てて、自分の口元に。そうそうそうそう。

○議員（2番 梅林 敏彦君） よろしいでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） はい。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 本日は、新規就農者をいかにして生み出すかということにテーマに質問したいと思います。

町長は今議会の施政方針の中で、こう述べられました。第1次きりり日野町創生戦略のうち最も困難で目標達成度の低い項目が産業と雇用の分野だったというふうに述べられました。きょうはそのうちの農業部門について質問いたします。

高齢化と人口減は日野町の農業に大きな打撃を与えています。しかし、日野町のような山間地の農業は単に食料生産の手段としてだけあるのではなく、その集落、地域を一つにまとめる重要なまとめ役の機能を果たしてきた歴史があります。すなわち、地域農業を維持することはそのまま集落を維持することであります。逆に言えば、農業が壊れたら集落が壊れてしまう。そうした危機感を持って今日は質問をいたします。農業におけるマンパワー不足、特に若い新規就農者の確保はいかにすべきかという内容です。

1つ目、昨年の町農業委員会による農家全戸アンケートで明らかになったように、後継者がいない農家は全体の61%、もはや耕作を維持できないという農家は29%、一方、今後10年以上耕作ができると答えた農家はわずか18%でした。この現実を町長はどのように捉えましたでしょうか。

2つ目、日野町は昨年、農業の活性化を図る県の支援事業、がんばる地域プランを策定し、採用されました。上限の事業費が1億円、事業期間は5年という大型な企画です。この期待の事業を新年度からどのように進められていかれるか伺います。

3つ目、農業委員会のアンケートで明らかになったように、今後10年以上農業を続けられると答えた農家は18%と申しましたが、このままいけば10年後には、現在ある農家の8割強が消えてしまうということになってしまいます。そのとき農地はどうなっているでしょう。そうさせないためには、20年後、30年後を見据えた若い世代の意欲ある新規就農者を着実に誕生させ続けていくことが肝要です。そこで聞きますが、町長は農業研修制度の創設についてこれまで検討されたことはありますか。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 梅林敏彦議員、質問の2番に事業費1億円と言われましたけど、回答を求める事項には6,000万円というふうになっていますが、どちらが。

○議員（2番 梅林 敏彦君） これは、5年間の間にいろいろと事業を積み上げていかれるそうなので、上限が1億円というふうに聞いております。現在は6,000万円。

○議長（小谷 博徳君） わかりました。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） おはようございます。2番、梅林議員さんの御質問にお答えいたします。

新規就農者の確保策についてということの中で、まず1点目、昨年農業委員会さんが行った農家アンケート結果をどのように受けとめたのかとのお尋ねでございます。

アンケート結果で、具体的な数字が明らかになったことにより、本町の農業の存続が待たなしの状況であると危機感を強めるとともに、農家の皆さんや関係機関と一緒に地域プラン

に基づく取り組みなど、スピード感を持って農業政策を展開していくことが重要であると強く感じているところでございます。

次に、今年度策定した地域プランをどのように進めていくのかとお尋ねでございます。地域プランでは、農業従事者を初め、農林振興公社、農業委員会、行政等が連携しながら、農地や集落を守っていく共助の仕組みづくりに取り組むこととしております。具体的には、農業委員会が中心となって集落ごとに守るべき農地を明確化するとともに、担い手のいない優良農地については、農林振興公社の人員体制等を拡充強化し、農作業の受託等を補完できる体制づくりに取り組みます。

また、農家や集落の大きな負担となっている草刈りや水路の維持管理などを手助けする体制づくりのほか、不要になった農業機械の有効活用を図るための農業機械バンクの創設、新たな担い手の育成確保のための農業研修会や特産品栽培研修会の開催、さらには農地の地力アップに向けた畜産堆肥の地域内循環の仕組みづくりにも取り組みます。これらさまざまな取り組みを、ことし4月から5年間にわたって、重点的かつ同時並行的に取り組む、本町の大切な農地農業をしっかり守り、維持していきたいと考えております。

次に、10年後の農地の状況はどうか、また農業研修制度の創設を検討したことがあるかとお尋ねでございます。まず、10年後の農地状況についてでございますが、アンケート結果で10年以上農業を続けられると回答された農家数は82戸であり、これらの農家の農地面積を合計すると約280ヘクタールであります。したがって、単純にアンケート結果から試算しますと、10年後の農地面積は現状の406ヘクタールから約3割減少することとなりますが、この数字はあくまで現状のまま推移した場合の最低ラインであり、今後5カ年間の地域プラン事業の取り組み推進により、このラインを少しでも引き上げることができると考えております。

また、農家数の減少により、集落機能の低下も懸念されます。このプランでは集落での話し合いの充実を図ることとしておりますが、農地のことだけではなく、集落支援員などとも連携しながら、集落機能の維持や今後の集落のあり方についても議論していきたいと考えております。

次に、農業研修制度の創設を検討したことがあるかについてでございますが、地域プランの策定検討委員会において、農業研修制度の創設についても検討が行われました。農業研修を農林振興公社が担うことができないか、また近隣の町のように独自の研修施設を設置し、実施してはどうかなど議論されましたが、農林振興公社は今後担い手のいない農地の作業受託などの増が見込まれるため、その体制整備を優先すべきであること、また独自の研修施設の設置につきましては、費用対効果の面で慎重な検討が必要であるなど、今後の継続課題となっております。

町としましては、県の農業大学校への参加促進を図りながら、地域プランに盛り込んでいる若者や女性向けの農業基礎研修会の開催や、新規就農者の財政負担の軽減を図るための中古農業機械購入助成に取り組み、若い新規就農者を確保していきたいと考えております。加えて、現在、農業活動をしている地域おこし協力隊の就農定着に向けた支援にも力を入れてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 先ほど、町長は本町農業の存続が待ったなしの状況であって、スピード感を持って政策を展開すると述べられました。ぜひ、そうしていただきたいと思っておりますが、私が冒頭で述べたもう一つの認識、つまり、地域農業を維持することはすなわち集落を維持することであるという認識について、町長自身はどのように捉えていらっしゃるか伺いたいです。町長も集落、農家が大半の集落に住んでおられるので、その辺の見解をお伺いしたいと思っております。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） こと中山間地、特にこの日野町においては農業の存在、農業が一つの集落の、どういうんですか、結束力、そういったものにも大きく寄与していると思いますし、コミュニケーションの中でも非常に大きな存在だと私は感じております。そういった面で、やはり農業の再生っていいですか、農業を通じた集落の維持、これは一つの大きな大きな、どういうんですか、課題っていうんじゃないくて、目標、そのように私は感じております。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） それでは、2番目の先ほどの質問に関連する質問をしていきたいと思っております。がんばる地域プラン、この中には先ほど町長が述べられた話し合いによる集落の農業に関する課題を点検していく、あるいは解決していくということが示されているんですが、その話し合いの中で、さらに大きな結びつきが集落の中に生まれるのではないかとというふうに期待しております。

さて、がんばる地域プランはその気になりさえすれば、活用のしがいのある大変大きな成果が期待できる事業だと思っております。ただし、なぜもっと早くできなかったのかなという気もしております。県内には17市町村の自治体があるわけですが、そのうち今回の日野町のこの事業の開始は12番目だったというふうに聞いております。県西部のほとんどの市町村は既にこれを活用して成果を上げておられるわけですが、このおくれに何か理由があったのでしょうか。町長はそういうことに詳しいはずの方でございます。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） がんばる地域プラン、これの策定が少し遅かったんじゃないかなっていうお話でございますけれども、私の経験ですと、日南であったり、江府であったり、もう先行してるところが恐らく5年前、それ以前ぐらいにも策定されて、いろいろ成果を上げてきておられる、そのように感じております。そういった中で、日野町もじゃあこういうことに取り組もうっていう、そういう機運が醸成できた、醸し出されて、なおかつ具体案としてまとまったっていうのが、一つの、どういうんですか、取り組みの成果であられたっていうことでございまして、特にその辺のあとの事情とか、前後の事情っていうのは私ちょっと把握してないんですけども、すばらしいプランができたっていうことで、これを進めていくっていうことのほうに傾注してまいりたい、そのように存じます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） それでは、がんばる地域プランの具体的な内容について伺っていきます。農家の高齢化によって年々大きな負担になっているのが、農業用水路の維持、そして草刈りです。この農業用水路の管理、維持、そして草刈りについては、それを手助けする体制づくりをするというふうに述べられました。この体制とはどんなものでしょうか、具体策があるのでしたらお聞きします。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 今回策定し、認めていただきました日野町のがんばる地域プラン、副題のほうに「大きな農業から小さな農業まで、助け上手、助けられ上手、共助システムの確立」という、そういう副題をつけております。そういった中で、サポート体制についての御質問でございます。具体のものはプランの中に書き込んでおりますので、担当課長のほうから補足説明させていただきます。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） お答えいたします。アグリサポートひのはどのような体制かということでございます。集落、農家さんの皆様が草刈り、水路管理、非常に大変な思いをしてやっておられるんですけども、そういったものを手助けするというので、例えば地域おこし協力隊でありますとか、農業に関心のある方々の中に、そういった作業を行っていただく方々を募集いたしまして、それをそういう方々に対して集落、農家の方々が依頼するという形でございます。その申し込みにつきましては農林振興公社が取り次ぐという形を考慮しております、農林振興公社のほうに希望される農家さんがお申し込みいただいて、アグリサポートひのという組織に公社

のほうが引き継いで調整をさせていただくという体制でございます。この体制につきましては、一応、来年度かけて体制づくりを行い、体制が整い次第試行して、本格的には再来年度から実施したいというふうな今計画でございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） その体制というのは有償でしょうか、ボランティアなんですか。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） 有償という形で考えております。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 先ほど述べられた中で、集落ごとに話し合っただけで守るべき農地を明確化し、また耕作できなかつた農地のうち優良なものについては農林公社が最後のとりでとして引き受けるというふうに述べられました。ただ、がんばる地域プランの詳細を見ますと、日野町に現在406ヘクタールある農地ががんばる地域プランによって、頑張って頑張って減らさないようにしても5年後には396ヘクタールになる。すなわち、10ヘクタールは農地でなくなるという計画になっております。農地として使いにくい土地はこの際切り捨てるということなんですけど、これについては私はむしろそうすべきだろうと思います。使えないところはやっぱりできるだけ淘汰して、残すべきところをしっかりと残していくということが大事だろうと思います。ただ、その捨てられてしまう土地が放棄地になってしまつては美観の面においても、またせっかくの土地、耕してきた土地を無駄にしてしまうことになってしまいますので、そうさせないための方策が必要になってくると思います。幾つか方策があると思いますけれども、町としてはどのような具体策を考えておられるかお聞きします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 農地、それから非農地化する農地、そういうようなお話でございます。406から5カ年間で10ヘクタール、優良農地でないところを非農地化していく。これは一つ、いろんな観点から非農地化するっていうのも一つの経済的選択肢になると思います。ただ、非農地化する土地を捨てるのか、そういうのではなくて、やはり議員さんおっしゃいましたように、やはりポジションとして有益な使い方っていうのも、これは考えていかないといけないと思います。恐らく非農地化される農地っていうのは、今考えますと、農業生産に向かない、土地条件が悪い、さらには地理的条件が悪いとか、そういうようなものが重層的に重なつたような土地ではないかなと考えられます。そうしますと、やはり手間のかからないようなもの、そういったもので経済

性がある程度、どういうんですか、担保する、そういったようなことも考えていかないといけない。非農地化したからゆえに、どういうんですか、やぶになったり、荒地になったりするようなこと、これは選択肢としては非常によろしくない、そのように思っております。具体の検討について何か、検討、話せるのかな。一般的には非農地化するっていうことになると、農地でない土地ということですから、植林もできると思いますし、果樹系のものであったり、あと非農地であっても農業的に利用できる面があれば花卉の、花卉っていうか、サルトリイバラとか、そういうようなものの生産、そういったこともできるのではないかと思います。これはまた土地所有者の方であったり、農業委員会の方であったり、いろいろ後対策、そういったものは考えていく方向になる、そのように存じます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 実はこのことに関しては、何人かの農家の方と話したことがあるんですけども、山の裾、すぐ山に続いているようなところだと、そのままやぶになっても仕方がないと思うんですけども、集落の中、民家の中に、民家と民家の間にそういうやぶになってしまうような荒地ができてしまつては美観を損ないます。そういうところをつくらないために、あるいはそれを多少でも換金できるようなものとして、あんまり木が高くない、陰をつくらない、手入れが楽である、やがては換金できる、そういう樹木を選んで植えたらどうかというような話も出ております。

また、これは私の集落のことなんですけれども、もうあと5年はできないから耕作をやめるところが出てきます。そういうところも中山間地交付金の支払い制度を利用して、そこから資金を出して有償で集落内でみんなでそこを草刈りをしようと、少なくとも草刈りをしてやぶにならないようにしようというような話も聞いております。幾つか具体策はあると思いますので、これも今後がんばる地域プランの中で新たにづくっていただけたらと思っております。

そうしますと、冒頭に3つ目の質問をしました。農業研修制度の創設に関する関連質問でございます。先ほど私が言いましたこととちょっと重複するかもしれませんが、この地域プランを進めていくためには、一番最初に各集落でさまざまなことをお互いに助け合いながらやっていくということで、話し合いが進んでいくと思うんですけども、現在ややもすると地域内のコミュニケーションが薄れがちになっておる中で、この話し合いを何度もやっていくことになるとは思っています。その中で農業を通じた話し合いが集落全体に元気を取り戻す、そういう可能性を感じておりますので、しっかりやっていただきたいと思うのですけれども、この話し合いの内容についてももう少し詳しく、担当課長からでもいいんですが、していただければと思います。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） 話し合いの具体的内容ということでございますが、基本的にはその集落、各農家の方がお持ちの農地を今後どうしていくのかということがまずあって、その農地が担えないということであれば、この集落の中で他に担える方がいないのかということをお話し合っていたり、また水路維持管理もできないということであれば、先ほどお話のありましたアグリサポートひのというところ活用できないかということをお話し合ったり、農地またはそれに係る農作業の観点を話し合うとともに、やはり集落での話し合い、それだけではなくて、やはりこの集落、これからどうしていくかということも含めて、幅広く話し合ってくださいというようなことを今考えておりますが、基本的にはその中には集落支援員であったり、農業委員会、農業委員さんにかかわっていただき、相談しながら進めていただくということを今考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 先ほどの答弁で、町独自の研修制度、その創設は今後の検討課題であるというふうに述べられました。ぜひ、検討した上で町独自の、オリジナルの研修制度をつくっていただきたいと思っているのですが、これも新年度、そして2年目、3年目へ続く間にさまざまなアイデアも生まれてくるんだろうと思います。ぜひ、この研修制度ということを念頭に入れて今後のプランを進めていっていただきたいと思います。

アイデアということでちょっと言いますと、こんな事例があります。例えば県内でいいますと、琴浦町と日南町で採用されている制度なんです。地域おこし協力隊を農業研修生として採用されています。卒業後は当然その地に定住して就農される。また、別の支援策を活用しながら定住していくということを進めておられます。それから、岩美町では農業大学校で勉強してもらい、そして卒業後はその町に就農してもらおうというために、入校料、授業料それから寮費、これを全額補助しておられる。そういう制度を採用されております。こうした例についてどのようにお考えでしょうか、お伺いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 農業研修制度につきましては、本問のほうでお答えいたしましたけども、プランを立てる際にあってもいろいろ御議論がなされております。いろいろ工夫をしながら、どういう取り組みがいいのか、どういうようなことがいいのかっていうのは今後も研究してまいりたいと思います。

それと今、お話のございました地域おこし協力隊を活用した琴浦のほうというようなお話もご

ございました。私どもの町でも地域おこし協力隊としてこちらに来られた方が農業生産、農業に非常に興味を、ますます興味を持っていただいて、いろいろ担当課のほうに御相談をされる、就農したいというようなことで御相談を受けているようなことを伺っております。町としても一生懸命バックアップしてまいりたいと思いますし、あと農業大学校の関係ですと、おとといでしたっけ、地域の農業法人さんのほうに、女性の方でしたけれども、米子から日野高校に通い、さらには日野高校から農業大学校に行って勉強して、日野町の農業法人に就業された。そういった新しい就業者、就農者っていうのも見えるようになってますので、こういった明るい話題も共有しながら、農業の後継者、そういったものを、どういうんですか、確保していきたい、育成してまいりたい、そのように存じます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 今述べられた協力隊、農業に非常に関心を持つようになった協力隊のことについては、実は私も本人から聞いておまして、最後にその話をちょっと紹介させてもらおうかなと思っているんです。

それから研修制度ではないんですけれども、こんな例もあります。私たち議会の総務経済常任委員会は、ことしの1月、島根県的美郷町に視察に参りました。日野町と同じような景色の山間地にある、人口が4,700人ほどの町です。そこでは、数年前からリースハウスという事業を始められました。これはかなり大規模な1.5ヘクタールほどの土地にビニールハウスをつくって、そこに新規の農業者、就農者を迎え入れるという制度です。就農者は年間30万円の賃貸料を払うだけでいいので、もうすぐさま事業に取りかかれるという利点がありまして、現在、個人の農業者あるいは農業法人さんが入っておられます。新規の雇用が17名生まれたそうです。それから移住者が3名おられるそうです。これは研修の日に、視察の日に町の副議長さんからの話も聞いたんですけれども、大変すばらしい人材が集まって、産業としても大いに期待しているということでした。これは過疎債を使って活用をされております。

それからもう一つおもしろいといいますか、ユニークな制度を考えられたのでちょっと紹介しておきますけれども、その説明会の際に列席されているいろいろ話してくださった方がおられます。これは地域おこし協力隊、何人かおられるんですけれども、そのコーディネーター、つまり地域とのつなぎ役、農地をどう確保するかというようなこと、それからネットワークづくりを補佐するとか、そういうつなぎ役として専門の協力隊向けのコーディネーターさんがおられます。この方はどういう肩書でこの活動をされているかというと、集落支援、やっぱり総務省の制度、集落支援員さんを採用して協力隊の世話役をされている、これも非常に必要なことかな、そうい

う人がいることがやっぱり地域とのつながりを早く持つことができますので、これも大いに参考にすべき点ではないかなと。

○議長（小谷 博徳君） 梅林議員、紹介で時間がなくなるようですので、質問に入られたらいいと思います。

○議員（2番 梅林 敏彦君） というようなこともありますので、今述べましたことについてどのようにお考えになったか聞きます。

○議長（小谷 博徳君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） たくさんの事例を紹介していただきましたので、全てにちょっと答えられるかどうか自信がないんですけども。まず、レンタルハウス、そういったものをやはり、これもがんばる地域プランの中でいろいろそういったもくろみ、検討の俎上に上がったようでございます。ただ、いろいろそういう検討の中で、どれだけ今利用者が見込めるのかとか、あと、非常に美郷町のように40棟ですか、たくさんお金がかかる、いわゆる使ってもらえるだろうか、そういったこともあって、もう少し待つのかなという状況になったようでございます。私どもとしましてはがんばる地域プラン、冒頭で5年間の上限額1億で、今、充足率が6,000万というようなんで、また相差がありますので、がんばる地域プランというのは変更もあるっていうふうに承知しておりますので、検討をして、研究してそういったものにのせてやるべきだということになれば、また計画変更、そういったことをしてみたいなと思っております。

あと地域おこしの関係、地域おこし協力隊であったり、農業に従事したい、そういう希望を持って例えば地域に来られた方、私の経験ですと、議員おっしゃいますように、農業だけのサポートではなくて、やはり集落とのつながり、端的に言えば、農業をやろうと思ったら水路ってどうか、水が大切なんですよ、その水については集落のほうで基本的に管理しておられる。そうするとそこをつながないといけない。そうするとそのつながりを例えば議員さんおっしゃられた集落支援員さんが集落との調整をしていただく、そういうこともあろうかなと思いますので、非常に大切な観点だと私は思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 最後に、質問になるかどうかなんですけれども、先ほど触れられました……。

○議長（小谷 博徳君） 質問、質問をしてください。

○議員（2番 梅林 敏彦君） はい、そうします。実は私は先週、大変うれしい、歓迎すべきニュース、新規就農に関するニュースを知ることができました。知り合いの協力隊員の一人に会い

ましたときに、本人が農業、今やっておる人なんですけれども、本格的に農業をやることにしたと。広い農地も借りられることができそうだと。そして一緒に住んでいるもう一人の隊員さん、彼は農業研修を期間中にやり、卒業後は農業次世代人材投資事業、これは5年間、年間150万円を支援していただけるという制度なんですけれども、それを受けるつもりであると。ということは、このお二人は就農、すなわち定住もするという気概だろうと感じております。大変歓迎すべきことでとてもうれしく感じることもできたんですが、詳細はいいんですが、これを事実として説明していただければと思います。つまり……。

○議長（小谷 博徳君） 何の説明ですか。

○議員（2番 梅林 敏彦君） これは本人から聞いただけで、私自身はそれが確認をまだしていないんですけれども、これはそのような……。

○議長（小谷 博徳君） 説明の具体的内容をちょっと。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 形になっているんですね、伺います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 今、議員さんのほうから御紹介いただきました、冒頭でも申しました、途中で申したんですかね、地域おこし協力隊の中でこの地域に来られて農業と触れ合う中で、就農への意識っていうか、決意が固まってこられた、それで就農面での、どういうんですか、相談を役場内で一生懸命聞きに来られる。町としても力強いバックアップをしたいなっていう思い、そういう状況はございますけれども、これの詳細……。言える範囲で、担当課長のほうからちょっと補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） 農業次世代人材投資事業費につきまして、これは国の補助金制度でございまして、これまで本町におきましては、米づくりの高田君、あとシイタケの廣瀬君、このお二人が利用されておられました。今、お話のあった地域おこし協力隊の方、お二人についてもこの事業を活用して就農したいという御相談を寄せられておりますので、今この事業に乗れるかどうか、できるだけ乗る方向で今調整をさせていただいているところでございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 当人たちはそのようにぜひ頑張ってもらいたいと思いますし、また町としては彼らの希望がかなうようにぜひバックアップしていただきたいと思います。

協力隊に関して言いますと、3年間の間に何をやるかということ、それは私が思うに、3年後

独立してこの町に住んでもらうための準備期間だと捉えるべきだろうと思います。やはり若い人が仕事を持って独立して、日野町で暮らしていかれること、そのこと自体が一番の地域おこしだろうと思いますので、ぜひそういう認識でもって行政のほうも進めていただきたいと思います。質問はこれで終わります。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員の一般質問が終わりました。

---

○議長（小谷 博徳君） ここで休憩を入れます。再開は、10時50分から。休憩します。

午前10時45分休憩

---

午前10時50分再開

○議長（小谷 博徳君） 再開をいたします。

次に、3番、山形克彦議員の一般質問を許します。

3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） いよいよ、しんがりとなりましたので、いましばらくおつき合いをいただけたらというように思います。

それでは、3月議会定例会に当たりまして、通告のとおり、第2次のきりり日野町創生戦略で示されている、本町の基幹産業である農林業の振興についてと、再度となりますが、町道根雨駅西側線の道路改良について町長にお尋ねしますので、簡潔で具体性のある答弁に期待をいたしたいと思っております。

それではまず、我が町の基幹産業である農林業で、このたびは農業の振興についてお尋ねしますが、第2次の日野町創生戦略、分野4、本町の基幹産業である農林業の振興については、担い手の経営基盤を強化しながら、将来にわたって営農できる基盤づくりに取り組むと推進方針が示されていますが、実態は、広報ひの2月号に掲載された、農業委員会のアンケートにも示されているように、急激な人口減少、高齢化による農家離れが年々加速し、農業後継者や担い手の育成・確保、農地の維持管理や保全が喫緊の課題となっていますが、現状はいずれも大変厳しい状況になりつつあります。

また、さきの中海テレビの正月番組で、町長は、6次産業化とかいろいろあるが、まだまだ道半ばで、いろいろな事業所が協働されているような取り組みも芽生え、期待をしていると、他人事であるかのようなインタビューに答えられていましたが、そのようなことも含めて、我が町の農業の振興策についてお尋ねします。

まず、1点目、担い手の経営基盤を強化しながら、将来にわたって営農できる基盤づくりに取り組むと基本的方向に示されていますが、具体的にどのような営農方針のもとで、担い手農家などの経営基盤を強化されるのか。また、農業後継者や担い手の育成・確保については、どのような方策をお考えですか。

次、2点目。

○議長（小谷 博徳君） 山形議員、マイクをもうちょっと口の。そうそう、そうそう。はい。

○議員（3番 山形 克彦君） 次、2点目、町長が言われた道半ばの6次産業化とか、事業所が協働されるような取り組みとは、創生戦略のもとで、6次産業化の普及推進をどう進めるお考えか。また、商品売り込むための販路の拡大はいかがお考えですか。

次、3点目、特産品開発や6次産業化、土づくりなどで農業所得を高めるとされていますが、具体的な取り組みについてはいかがお考えですか、お尋ねします。

次に、町道根雨駅西側線の道路改良について再度お尋ねします。一昨年の7月に議決されて以降、事業を繰り越し、1年以上も放置した後、昨年の9月3日ようやく工事が発注され、12月下旬が工期となっていますが、2カ月以上も遅延をしており、こうした状況から見ても必要性を疑うところであり、その必要性について再度お伺いします。

まず、1点目、町道根雨駅西側線の道路改良事業は、どのような必要性のもとに施工されたのかお尋ねします。

次に、2点目、公衆用道路として、金持テラスひのや周辺にどのような効果をもたらされますか。また、費用便益分析の1.47という数値は何を示し、その数値は町道改良に適正に反映されているのかお尋ねします。簡潔で具体性のある答弁をお願いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 3番、山形議員さんの御質問にお答えいたします。

農林業の振興について、あわせて町道根雨駅西側線の道路改良についてということでございます。

まず、農林業の振興について、1点目、どのような営農方針で農家や生産団体、担い手の経営基盤の強化を図っていくのか、また農業の担い手の育成・確保はどのように考えているかのお尋ねでございます。

まず、担い手の経営基盤の強化につきましては、町が策定した農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想に基づき、本町の農業を担う経営体が効率的かつ安定的に経営を行うことができるよう、農業経営の規模拡大や生産方式、経営管理の合理化などに積極的に支援することとし

ており、例えば農業者に対する経営診断や経営改善方策の提示を行うとともに、農業委員会等が農地の出し手と受け手の情報を収集し、中心経営体への利用権設定を促進したり、集落営農の組織化や農業経営体の法人化を進めることなどに取り組むこととしております。

次に、農業後継者や担い手の育成・確保につきましては、所得面を含め若者が本町農業の未来に可能性を感じてもらうことが重要であり、若者にとってやりがいのある魅力的な農業にしていかなければなりません。このため、独立、自営する若者に対して、年間150万円、最大5年間交付する農業次世代人材投資事業、国10分の10の事業でございます。を実施し、新たに農業を行う若者を経営面で支援することに加え、来年度からはしっかり収益を確保し、経営を安定化させることができるよう、日野町の核となる特産物を具体的に設定し、その品目についての栽培研修会を開催するなど、農業所得の向上につながる取り組みを進めます。

また、若者や女性向けの農業基礎研修会の開催や、新規就農者の財政負担の軽減を図るための中古農業機械購入助成に取り組むとともに、農業研修をしている地域おこし協力隊など、本町での新規就農に意欲ある若者も育ってきておりますので、その着実な定着に向けた支援にも取り組み、若い新規就農者の育成・確保を図ってまいりたいと考えております。

続いて、どのように6次産業化の普及推進を図るのか、また販路の拡大を今後どのような方法で展開するののかとお尋ねでございます。豊富に存在する地域資源をフル活用し、独自性のある付加価値の高い商品の生産、製造、販売を一体的、総合的に取り組む6次産業化につきましては、引き続き地域の各団体や農家の皆様、日野高校の取り組みを支援するとともに、日野町特産品ブランド化実行委員会と連携しながら、金持テラスひのの特産品売り場の充実を図るほか、日野町のふるさと基金の返礼品として、きねつきもち、日野町産コシヒカリ、鳥南カレーとハブ茶セットなどを販売していきます。町としては意欲ある事業者さんや集落の取り組みを側面支援しながら、6次産業化による開発された商品等の町内外へのPRや、販路拡大に向けた売り込みなどに積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、農業所得を高めるために、具体的にどのような取り組みを行うのかとお尋ねでございます。本町の農業産出額は、平成29年度が約4億4,000万円、対前年比2,000万円の増、近年微増傾向にあります。農業が産業として持続的に発展していくためには、農業産出額をさらに増大させ、生産コストの縮減を図りながら、農業所得の増大を目指していくことが重要ですが、これらの取り組みだけではなく、6次産業化や付加価値を高める取り組みなどを総合的に推進していく必要があります。このため、本町では消費者目線に立ち、パッケージやデザインにこだわったオリジナル商品の開発を行う事業者さんや、日野高校の6次産業化の取り組みを支援

するとともに、来年度から新たに、米や野菜の収量、品質の向上を図るために、畜産堆肥を活用して地力アップを図る農家さんや集落の取り組みを支援することとしております。また、JAや県の農業改良普及所等とも連携しながら、農業所得の向上につながる日野町の核となる特産物の生産振興に重点的に取り組むとともに、イベント等に出店する事業者さんへの支援や、金持テラスひのの販売力強化、さらには町外への新たな販路開拓にも積極的に取り組み、意欲ある農業者の所得向上につなげていきたいと考えております。

次に、町道根雨駅西側線の道路改良はどうであったか、どういった必要性のもとで施工されたのかのお尋ねでございます。1年以上も放置したっていうようなお話でございますけれども、繰り越し手続、そういったところで繰り越し理由を明確に述べさせていただいておりますので、その点はお含みおきいただきたいと思っております。町道根雨駅西側線道路改良事業につきましては、一昨年の7月の議会で事業実施の御承認をいただき、昨年9月6日に工事の発注を行い、事業を進めてまいりました。この事業は、金持テラスひのへのアクセス道路をふやすことで、駐車場内と国道側入り口付近の交通渋滞を緩和し、利用者の安全性、利便性を図る必要があるため、延長90メートルにわたり道路改良を行ったものでございます。

次に、金持テラスひのの効果についてのお尋ねでございます。町道根雨駅西側線はJRとの協議等により工事がおくれておりましたが、現在工事が完了し、供用開始を待つ段階でございます。本町道は、公衆用道路として金持テラスひのの利用者、周辺事業所及び農地耕作者の利便性が増すと考えております。費用便益分析の1.47は、便益を事業費で除したものでございます。便益は、車両が1日100台通行し、その車両の走行時間短縮と走行経費燃料を金額で示したもので、50年分の便益を計算しております。便益が2,940万円、事業に係る経費が2,000万円、計画時の概算でございますけれども、それで計算しますと1.47となります。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） それでは、再度お尋ねします。

まず、担い手の経営基盤の強化をしながらについての答弁をいただきましたが、町で策定した農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想に基づきとのことですが、お聞きしますのは、第2次きり日野町創生戦略を補完するものなのか、全く別ものとして策定された日野町の農業の振興計画なのか、双方の計画の位置づけについて、どう取り扱われているのかお尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 総合戦略のほうが、どういうんですか、いろんな要素を、いろんなもの

を集大成して、目標を定めていくってということですので、優劣っていう意味合いではありませんけれども、そういう経営基盤の構想、そういったものも踏まえて構想の中に反映する、そういうスタンスでございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） なぜこういうことをお聞きしたのかということですが、日野町創生戦略を補完するものであれば、当然推進方針の基本となっている、いわゆるきり日野町創生戦略があり、それを補完するために実施計画というものが作成されることになると思いますけれども、担い手の経営基盤を強化しながらとされる推進方針が、そういうことであるなら理解はできますけれども、ただ答弁では、町で策定された農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想に基づきとなっていましたので、そこらがどうリンクされているのか、うまくできているのかについて、再度お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 具体的に農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想っていう中では、自立できる農家さん、さらには、その所得目標額、そういったものも掲げておりますし、あわせて、やはり、経営基盤の強化っていうことになりまして、農地の集積、そういったこともしております。そういった面が、どういうんですかね、総合戦略のほうにも担い手の育成、そういったことを掲げている中では、そういう所得目標であるとか、経営基盤いわゆる農地の集積であるとか、担い手の育成、強化そういったことに全部通じている、そのように私は考えております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） リンクされているということですので、質疑に戻りたいと思いますが、今後も人口減少と高齢化により、荒廃農地の増加は見込まれ、担い手や後継者は当然不足するものと思われませんが、そうした状況を考えれば、利用権設定や集落営農の組織化など大変厳しいものになると思われませんが、そうした中で、担い手といわれる方の経営基盤の強化を図るには、さらに労働力等の人的確保や作業用機械の整備が必要になると思われませんが、その部分を解決しなければ水田等受託面積も、ほぼ、今限界に達していると思われまして、経営状況も厳しいとお聞きしますが、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想では、経営の規模拡大や生産方式、管理経営の合理化など積極的に支援するとされていますが、本当に町が支援だけで大丈夫なんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） 農業経営にあつては、いろんな要素入ってきます。議員さんおっしゃられるように、端的に言えば町の支援だけでいいのかっていうと、それだけじゃなくって、やはり経営をされてる主体、その、どういうんですか、どういう経営をしていくのか、どういう方向に持っていくのか、そういったことが本当に大きな要素になろうと思います。

今現在、日野町には大きな経営体として、30ヘクタールぐらいの農地を経営しておられる方とか、担い手であってもまだ3とか5とかそういうような方もおられます。そういった中で、我々がいていいですか、がんばる地域プランの中でも触れておりますけれども、農地をいかに効率よく集積する、分散した経営じゃなくって団地化、そういったことも一つのイメージにありますし、そういった団地化することによって、生産の効率化、要は、点々であるとなかなか目が行き届かない、作業が行き届かないっていうようなことがありますので、団地化することによって収量、要は農業収入をふやす。合理的な作業によって経費を削減して、農業所得をふやす。そういったようなことを経営者の方といろいろ御相談しながら進めていく。そういったことが一つの手段かなくなっていうふうに考えております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 農業経営者との相談によってということのようですが、ここでちょっとお尋ねしたいと思いますけども、この農業経営基盤の強化の基本的な構想は、何年計画で進められているのかお尋ねしたいと思います。といいますのも、第2次の日野町創生戦略は、5年間の推進方針をもとに目標値を設定し、それを目安に各年度ごとに達成状況を検証しながら、予算措置を講じて推進を図ることになっていますので、そう考えれば単年度ごとの事業評価はどのようにされるのか、2点についてお尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 具体の事項の御質問ですので、担当課長のほうから答えさせます。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） お答えいたします。この構想は、一応5カ年の計画でございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 5カ年で、今の創生戦略とちょうど重なっているということになるようでございますので、ちょっとあとがなくなりますので、計画書的なものがあれば後ほどいただければというように思いますが。

先ほども申しました、これからも年々高齢化が進み、農家離れがますます加速することは必至

であると考えますが、それに伴い荒廃農地も増加することが予測されますので、まず荒廃農地としないためには、農地の流動化が急がれると思います。農地の出し手は幾らでもありますけども、心配されるのは逆にそれに対応した受け手があるかが課題となりますが、町としてこれから農地の流動化を進めることによって、受け手が確保できるものとお考えですか、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんおっしゃいますように、そして先ほども別の議員さんの御質問にもあったんですけど、農家のアンケート、そういったアンケートの結果を見ても、農地を活用するっていうことを自分の代ぐらいまでじゃないかっていうような、そういう方が多いっていうのは実態でございます。そういったところで非常に危機感を持っております。ただ、今プランを策定しまして、やはり認定農業者であるとか、今農業を一生懸命やっておられる担い手、先ほどもこれも申したんですけども、まだ、どういうんですか、農地がまとまれば受け入れられるっていうようなお話も随分あるっていうふうにお伺いしてますので、その辺農地の流動化、農地をお貸ししたいなっていうような、そういう情報を上手に整理して、やはり効率のいいほ場団地、そういったものを耕していただけるような、そういうような、単につなぐだけじゃなくて、やはりそういったことをしていけないといけない、そういったことで荒廃農地対策も進むんじゃないかなと、これは一つでございますけれども、そういったことをしてまいりたい、そのように存じます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、受け手というか、担い手の確保、いずれにしても大変厳しい状況だろうというように思いますが、私が言いたいのは、そういった構想、プラン、日野町にありますけども、これを、いわゆるこの計画は、首長自身が目的というか目標を設定されて、それを実行に移して、達成されるために最大限努力をされるのが首長の役目というように私は思っていますけども、町長、このことについては、いかがお考えになられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 農地の荒廃っていうのが本当地域の疲弊につながってまいりますので、農地の荒廃を防ぐということで、そういったことを果たして、町の、どういうんですか、元気なまちづくり、産業の振興、そういったものに全力で尽くしてまいりたい、そのように存じます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、おわかりをいただいたようですが、言葉だけでなく、ぜひとも先頭に立って旗を振られて、創生戦略を達成するために全力で取り組まれることを申し添え

て、次に、担い手の育成・確保についてお尋ねしますが、具体的施策及び事業取り組みに町農林振興公社の機能を強化すると示されていますが、私としては、答弁が、町農林振興公社を担い手の受け皿として地域づくり協力隊の方など、先ほどもありましたけども、農業に意欲のある方や就農希望をお持ちの方を募集し、制度をフルに活用しながら、担い手や後継者を育成されてはと思います。いかがお考えですか、町長、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 町の農林公社、これはがんばるプランでも、そしてそれ以前もやはり地域の担い手、経営者じゃないですよ、担い手として、位置づけておりますし、今後もそういう位置づけ、本当にどういうんですか、経営はそれぞれの農家がしておられるけど、本当に作業がなかなか全部自分でできないよってというような、そういうような場面がこれから随分出てくるのではないかなと思います。そのときの担い手、受け手として農林振興公社、非常に重要になってくる、そのように感じております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、なぜこのようなことを言うかといいますと、農林振興公社で作業されているオペレーターの皆さんも、高齢化が進んでいるということは否めないと思います。そう考えれば、早々にでも担い手の育成に取り組む必要があると思いますが、今後も地域づくり協力隊の方を、今年度ですけども、地域づくり協力隊の方を4名ほど受け入れる予算措置がされているようですけども、受け入れ先は奥日野ガイド倶楽部や菅福元気邑などが予定されているようですが、それはそれとして、先ほども申しました農業に意欲のある方、就農希望をお持ちの方、こういう方を早急に募集されて、担い手の育成と確保に取り組まれてはと思いますが、再度お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 重ねての担い手の、どういうんですか、育成っていうことでございます。先ほどの議員さんにも申しましたけれども、地域おこし協力隊で来られた方が、こちらで経験を積まれる中で、いろんな経験、出会いの中で、農業のほうに、地域で農業をやりたいとか、あと、日野高校で学ばれた方がこちらにまた帰ってきていただいて、農業をやりたい、そういった方もございます。農林振興公社につきましては、今こういったことをこの5カ年間でやっていくってような中でございますので、その範囲内でとりあえず頑張っていきたいなと思います。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、創生戦略に示されている以上は、先ほども申しましたけども、計画を達成するには、首長自身が先頭に立たれて、達成することが首長の役目ですので、口先だけでなく、真剣に取り組まれることを申し添えて、次に、町長の言われました、道半ばと言われる6次産業化とかについてお尋ねしますが、町長は、総花的にあれもこれもと多様な産物を6次産業化のように羅列し、いずれも他力本願的な口調で農産物等の開発を支援という言葉だけで取り組まれているようにしか私は思っていないんですが、将来にわたって足腰の強い農家や生産法人を育成していくには、一定の規模を生かしてもうかる農業、潤う産業でなければ、単純に支援というまやかしのようなことでは、業種によっては一過性に終わってしまう可能性も考えられますので、特産品の開発として支援するものと、生産基盤を強化する観点から、6次産業化として町が積極的にかかわりを持って支援するものにすみ分けをしながら、取り組まれてはと思いますが、いかがですか、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんの御提案まさにそうだと思いますし、そういう方向で、特産品絞っていきたい、そのように思います。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長がそういう方向でということでございますので、私としては6次産業化を進めるのであれば、市場や量販店など一定の需要に対応できる生産量が見込める農産物でなければ、6次産業化の大きな課題である販路の拡大、これにつながりませんので、そう考えれば現在作成されている、鈴原糯やヒメノモチといったいわゆるモチ米を生かした6次産業化に傾注されてはと思いますが、いかがですか、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 鈴原糯のことですよね。非常に地域にとって、というか他の地域にないものっていうことですのでけれども、私、生産団体さんにちょっと申し上げたんですけど、もう少し加工の工夫っていうか、お餅だけじゃなくて、いろんなことをチャレンジしてみられませんかというふうなお話もさせていただいておりますので、その辺、例えば、検討されて具体のものが出るとすごくいいなっていうふうになら、感じております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） お考えもお持ちということのように解釈をしますが、私はあれもこれもと、特産品と思えるような取り組みを今は、支援をされているものと思っていますが、私とすれば町内といった限られた範囲の中では、販路の拡大にはつながりかねますので、一定以上

の量産が見込める餅などを初め、農産物等の販路をさらに拡大するために、町のトップセールスマンである町長みずからが、先ほども言われましたけども、行動を起こして積極的に出かけられて、市場や量販店など新たな販路の開拓をされてはと思いますが、いかがですか、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） トップセールスについては、本当に必要だと思います。ぜひ議員さんも御一緒にトップセールス、同行していただければありがたいなと思います。（発言する者あり）

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） お互いに協力ということが必要ですので、その辺はまた、町長とともに6次産業化を活性化していきたいというように思います。まだ私が言いますのは、町長は6次産業化とかはいろいろあるが、まだまだ道半ばと言われますけども、私は、6次産業化はいろいろなくて、一つしかないんですよ。生産、加工、販売といった一連の流れで付加価値をつけて販売するのが、6次産業化と思っています。

町内には、特産品など多くの商品があっても、販売という流通に乗らなければ、商品が商品として生かされなくて一過性に終わってしまい、農家の所得の向上にはつながらないと考えますので、そう考えれば、町の特産品の販売については、先ほども申しましたが、町のトップセールスマンである町長が、6次産業化のうちの3次産業、いわゆる販路の開拓ですよね、これを積極的にやってみられるつもりはありませんか、再度お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ありがとうございます。販路拡大、そういったことに、そういう機会をぜひつくってまいりたい、そのように思います。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） ぜひとも、口だけじゃなくて前に進めるということで、御理解をいただきたいというように思います。

次に、特産品開発や6次産業化は、堆肥を利用した土づくりなどで農業所得を高めるについては、循環型農業などを取り入れて、町内産米のブランド力を高め、農業所得を高めるとのことですが、具体的にどの程度の収入のアップを見込まれているのか、試算はされていませんか、いかがですか、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 水田農業についての具体的な試算ということでございますので、担当課長のほうで補足答弁させます。よろしく申し上げます。

○議員（3番 山形 克彦君） わかる範囲でいいです。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） 収量等々のお尋ねですけども、計画のほうは、具体の数値のほうは、算出しておりませんが、このプランを進める中で、検討していくということで関係者とは確認し合っております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） なかなか試算もできないと思いますが、私は創生戦略中身そのものが、達成の見通しにはほど遠い、飾り言葉が連なっている、要するにきれいな言葉がつながっているように思っていますが、目標値となる実施計画も多分ないと思うんですけども、そういう中で、特産品開発や6次産業化、堆肥を利用した土づくりでは、オリジナルの商品の開発や品質の向上を図るための産地力をアップし、農業所得を高めるとされていますけども、本当にそういったことで農家所得を高めることが可能なのか。お尋ねしたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 農家所得を高めるためにいろんな取り組み、そういった取り組みで本当に可能なのかっていうことでございますけれども、可能だと考えております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、いろいろお聞きして、前向きのような姿勢ということで、積極的に6次産業化を推進するようでございますので、それなりに一生懸命取り組んでいただけたらと思いますけども、私が申したいのは結局は、販路というか販売があつてこそ、生産農家の収入につながるということは、これは当たり前の話ですので、そういった現実をよく理解をいただきまして、我が町の農林業の現状を踏まえ、真剣に取り組まれることを申し添えて、次に、町道根雨駅西側線の道路改良についてお尋ねしますが、この町道は金持テラスひのを活用した、年に数回のイベントの混雑時に、車の出入りを幾らか緩和するだけの、使用頻度が疑われる道路にしか思えません、町長、工事現場を見られたことはありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） この道、イベント用の道ってということじゃなくって、場内には駐車場、金持テラスの前を含めた駐車場60台ぐらいのキャパがありますので、そこを利用される方を対象にして開設したものでございます。決してイベントだけのためってということでは私はないと思っております。それと、開設前、前後の道路を見ましたかっていうことでございますけど、開設前も私、線路沿いですよね、線路沿いに原形があります。歩きましたし、完成後、完成後は全部

歩いておりませんが、それぞれの入り口っていうか出口、その辺は見せていただいているところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、現場を見られたということでございますけども、あの道路を見られて、本当に道路が必要であるということが感じられましたか、いかがですか、お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 現況の、金持テラスに入ったり、国道側から入ったり出たりする、そういったときにいろいろ車を見落としたらいけないな、何かいろんなことを心配する中で、この道ができたってということは、利用される方の安全性、そういったものにすごく大きく寄与するな、そういう思いを持って見せていただいております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、なぜこういうことをお聞きするかということなんですけども、実は町長、町民の皆さんから直接聞かれるかどうかは知りませんが、私が聞く限り町民の皆さんの中には、多額の費用を使って効果の疑われるような道路をつくるのなら、災害時の避難場所として利用する山村開発センターなど公共施設のトイレを洋式化にするなど、町民の福祉に使われるべきではと言われる方もありますので、そう考えれば本当に道路の必要性が理解されるよう説明をされてはというように思います。そこらはいかがお考えになられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） そういうお話がもしあるってということで、説明っていうか状況を聞きたいってようなお話であれば、出向いてまいらないといけないと思いますし、本当に、どういんですか、あの道路が供用開始になったときに、ぜひ通行していただければ、利便性であったり安全性、そういったものが高まったなっていうふうにお感じになられるんじゃないかなと思いますので、そういった体験っていうか、そういったことも経験していただきたいなと存じます。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、何とも理解のできるような説明ではないというように私は思いますけども、これ以上お聞きしても無駄のようですので、次に、費用便益分析で算出された1.47という数値についてお尋ねしますが、分析方法については先ほど説明をいただきました。算出された数値ですけども、1日に車が100台通行し、50年間の便益を計算したとのことですけども、この数値が、この西側線に当てはまると思われますか、いかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 一昨年の御説明のときに使わせていただいた数字ですので、当てはまる  
っていうふうに認識しております。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 町長、私から見れば、机上の計算はあくまでも推計の域なんです。  
この分析方法が、町道に当てはまるとは私は思いません。道路改良によって当てはまらんと思  
いますけども、この道路改良によって、金持テラスひのやその周辺の利便性が増すというこ  
とでし  
たけども、具体的にどのような利便性がもたらされるというように町長として思われますか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 先ほど、本問のほうでお話をさせていただきましたけれども、移動時間  
の短縮、それから移動に要する燃料の消費量の減少、さらには追加で申しましたけども、安全性  
に対する信頼性っていうんですか、が高まる、そういったもので利用者の方には、いい影響があ  
ると私は考えています。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 最後になりましたけども、答弁は求めないように考えますけども。

○議長（小谷 博徳君） 求めてください。

○議員（3番 山形 克彦君） いや、もう時間がありませんので。私とすれば、町長言われる答  
えが答えになってないように思います。したがって、これからの活用として、費用対効果が見  
込めないような道路と批判を受けることもなく、必要性が十分に発揮でき、有効活用されるこ  
とを期待し、投資効果が無駄とならないことを申し添えて、私の一般質問を終わります。ありが  
とうございました。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形克彦議員の一般質問が終わりました。

以上で一般質問を終わります。

---

○議長（小谷 博徳君） お諮りをいたします。本日の会議はこれで散会にいたしたいと思  
います。  
これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いた  
しました。

本日はこれで散会いたします。

会議の再開は、3月19日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。

午前11時39分散会

---